

# 令和3年度 自己評価

こども広場あんり

2022年2月28日

	評価項目	目標設定の理由	取り組み状況	結果 ( % )			
				A	B	C	D
1	乳幼児の活動がより豊かになるように、活動の展開に応じて環境の構成をする	乳幼児の成長にとり、実体験が大切である。その体験が豊かになるためには、乳幼児が見たい・知りたい・やりたいと思える環境構成が必要である。自発的な活動としての遊びを生み出すために必要な環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の子どもの姿から何に興味関心を持っているのか考えて遊びに取り入れる。また実際に見たり触ったりすることで、その季節ならではの体験をすることができた。</li> <li>・子どもの姿から必要な環境を整えることを意識して行った。</li> <li>・園内研修として環境について考え、子どもたちの発達に合ったコーナー設置をすることで好奇心、興味関心が深まった。</li> <li>・季節や自然物に触れられるよう園外に出掛けた。</li> </ul>	9	64	23	4
2	3歳以上児 指導計画は、マンネリ化しないように見直しを行い、幼児の状況の変化に対応する。	遊びを通しての総合的な計画を立てる。長いスパンで繰り広げられる保育を展開する中で、乳幼児の実態を見て、状況にあった充実した保育の展開をしていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の振り返りや月の目標設定、反省を通して個別計画を丁寧に立てていった。1年の計画を立て子どもたちの様子発達に合わせたかかわりを心掛けた。</li> <li>・今年度は園内研修を通して制作について共通理解をしながら次の指導計画を立てることに繋げることができた。</li> <li>・年齢が低いほど発達に差があるため、日々の保育に於いてかかわりを大切に観察理解をし、その子にあった個別計画を立てることを意識した。</li> </ul>	23	36	36	5
	3歳未満児 個別計画が適切に立てられているか。						
3	保育の流れや乳幼児のこことなど、常に保育者同士話し合い、情報の共有をする。	乳幼児の姿は一人ひとり異なる。また、乳幼児の見せる姿やそのとらえ方は、保育教諭により異なる。保育教諭間意見を交換し、多面的に幼児を捉えることが必要である。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援等についても、その都度話し合うようにしたことで解決に時間がかかることもあったが、1人で悩まず考えられ安心だった。</li> <li>・週案、月案の立案や部会で話し合い情報共有ができていく。</li> </ul>	41	41	14	4
4	各自が保育教諭としての良識を大切にして、能力を高めるよう努める	保育教諭としてふさわしい態度を身に付けると共に、専門的知識を得る機会に積極的に参加することにより、社会人としてレベルアップを図りたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・キャリアアップ研修、免許更新の受講で専門的知識を身に付けることができ取り組めた。</li> <li>・リモート研修は参加しやすく良かった。</li> <li>・研修を通して新しい知識の習得、考え方を知り保育者としての意識を高められて。</li> </ul>	9	50	41	
5	地域や社会とのかかわり	認定こども園に求められる社会的ニーズの変化に対応し、地域に根ざす園づくりについて考えていきたい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で地域との関りが少なくなっている中で散歩で地域の方と話すことが唯一だった。</li> <li>・散歩の際には、地域の方には明るく挨拶をすることを心掛けた。</li> <li>・伝統行事や伝承遊びを大事に伝えた。</li> </ul>		41	27	32
6	保護者のニーズの把握に努め要望や苦情に適切に対応できる体制をつくる。	乳幼児の育ちの背景にある家庭の姿に迫るためには、さらに保護者との緊密な連携が必要となる。保護者の思いを受け止める体制をつくと共に、乳幼児のより良い育ちに向けて、共に学ぶ姿勢づくりを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者対応や連携はとても大切に行うことができ自信を持つところである。</li> <li>・連絡ノートだけでなく、登降園時の保護者とのコミュニケーションを大切に保護者の思いや考えを聞くように努めた。</li> <li>・必要に応じて面談の場を設け丁寧に話をしていた。</li> </ul>	4	55	27	14
7	あんり職員としての意識を持つ	子どもたちに良い保育環境を与えるためには、保育者間の関係性が重要である。社会人として同じ職場で働く者として、自分の役割や心掛けたいことを考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あんりの職員として、子どもたちに相応しい人になれるよう努力してきた。</li> <li>・職員の一員としての役割を考え進んで行動し気持ちよく過ごせるよう心掛けた。</li> </ul>	14	41	36	9

\* 結果の表示方法 A…十分達成されている B…達成されている C…取り組まれているが、成果は十分でない D…取り組みが不十分である